

## 第6回 設楽ダム環境検討委員会 議事概要

日 時：平成28年12月12日(月) 14:00～15:30

場 所：桜華会館「桜花の間」

出席委員：松尾 直規 委員（委員長）、小笠原 昭夫 委員、西條 好迪 委員、  
田中 正明 委員、野平 照雄 委員、森 誠一 委員

### ○議事概要

#### (1) 環境検討委員会の経緯及び経過について

- ・環境検討委員会と各検討会の位置付け、環境検討委員会の経緯、今後予定している環境検討委員会の議事内容について報告した。
- ・環境検討委員会の経過として、これまでの委員会での意見を踏まえた対応について報告した。
- ・陸産貝類の地元専門家からの意見を踏まえ、確認種リストを更新する際には最新の知見を収集し用いること、陸産貝類のDNAの分析のための標本保存等を行うことについては、事業者が方針を立て専門家及び本委員会の意見を伺いながら進めることとした。
- ・現地調査により採取した標本の保存場所、保存方法について検討が必要であるとの意見から、今後、委員会で助言を頂きながら検討を行うこととした。
- ・カビゴケの移植手法については、生育基盤となる植物を移植する方法であったが、事例を参考に着生した枝や幹等を樹林内に積み上げ定着させる手法を採用していくこととした。

#### (2) 事後調査報告書（案）について

- ・環境影響評価の事後調査の手続き、設楽ダム建設事業で行う事後調査、事後調査報告書（案）の構成、今回の事後調査報告の対象、事後調査の実施状況及び結果の概要等について説明した。
- ・今後、クマタカが確認されないようなことが起きた場合の対処については、確認されなくなった原因について猛禽類検討会で審議し、工事の影響の可能性があれば、必要な措置を検討することを説明した。
- ・今までの状況をみると、クマタカが全く生息しなくなるような環境の大きな変化は想定されなかった。ある個体が無理な理由でいなくなっても、環境が悪化していなければ他の個体が移ってくると考えられるとの意見があった。
- ・一時的にある種が確認されなくなっても、しばらくするとまた確認されるといった変動はよくあるので、長いスパンで評価する必要があるとの意見があった。
- ・クマタカの営巣については、不確実性が考えられるため事後調査を継続する方

針について、営巣のみでなく餌環境の不確実性も考えられるとの意見から、「営巣等」の表現に修正することとした。

- 事後調査報告書（案）に、クマタカ以外の今後の事後調査予定についても現状を簡潔に記載すべきではとの意見から、関係機関と記載について協議することとした。
- 修正、協議事項を踏まえることで事後調査報告書（案）について、了解を得た。

以 上